

令和8年度 第2回 有玉小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 2026年7月1日(水) 13時10分から15時30分まで
- 2 開催場所 有玉小学校 図工室
- 3 出席委員 石田 隆康、本田 正弘、高林 愛子、中村 佐佳恵、齊藤 千鶴子、
村上 明宏(委員総数7名中6名出席により会議成立)
- 4 欠席委員 村田 実佳
- 5 オブザーバー 太箸 隼斗(積志協働センターCS 担当)
小木曾 佳名子(学校支援コーディネーター)
- 6 学校 伊藤 千恵(校長)、定盛 俊孝(教頭)、本樫 俊介(主幹教諭)、
安村 有季子(CSディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 安村 有季子
- 9 議長の選出
前回の協議会において、議長の選出について、本田 正弘委員を推挙する旨の
発言があったことを司会が確認し、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
(1)授業参観(13時20分から14時5分まで)
(2)熟議(1学期の取り組みを振り返る)

11 会議記録

(1)授業参観

○授業参観について説明

主幹教諭より、グランドデザインに基づく参観の視点が説明された。

説明された参観の視点は、グランドデザインにおける「知・徳・体」の子供の
姿。

知(確かな学力):自ら学び、磨き合う姿

徳(豊かな心):互いに認め合い、支え合う姿

体(健やかな心身):心身ともに健康で、高め合う姿

これらの観点を中心に、授業での子供たちの様子や教職員の指導について委
員に観察してもらい、その後の分科会で教員と顔を合わせながら意見交換(熟
議)を行うことが説明された。

(2)熟議(1学期の取り組みを振り返る)

議長の指示により、A,B,C,D グループに分かれてグループで意見交換を行っ
た。各グループからは、以下の発言があった。

【Aグループ】

○強みと継続事項

- ・前向きな姿勢の児童が多い。
- ・「ありがとう」という言葉が自然に出言えたり、友達への温かい反応をしたり
する姿が見られる。

- ・外遊びの活発さもある。

○課題と背景

- ・年々、自分の体を思い通りに動かせない児童が増えており、けがの多さにつながっていると思う。
- ・児童の成長に合わせた机と椅子の高さを調整する必要がある。

○今後のアプローチ

- ・年度途中の成長に合わせ、インパクトドライバーを活用して机の高さを迅速に調整する体制を整える。
- ・低学年の感情コントロールや自信のなさを補うため、SEL(ソーシャル・エモーションナル・ラーニング)を導入したらどうか。
- ・給食時間の見直しによる食育の充実や、トラブルの元となる言葉の不足を解消するための国語力・言語力の高めていくことが大切だと思う。

【B グループ】

○強みと学習状況

- ・全体としてルール遵守の意識が高く、運動会の立ち入り禁止区域を守るなどの姿が見られる。
- ・ICT(タブレット)への適応が非常に早く、教員の適切な褒め言葉によって学習意欲も高まっている。
- ・有玉っ子サポーター(地域ボランティア)の支援が効果的である。

○課題と行動面

- ・朝の挨拶や自分からの発信が少ない点が課題である。
- ・困難に対する粘り強さの不足や、廊下走行などの危機意識の低さが目立つ。
- ・一部で委員会の主体的な活動が見られる一方、主体的な活動が見られない委員会もある。
- ・低学年では自分の気持ちを言葉にできず、トラブルに発展するケースが課題として挙げられた。

【C グループ】

○地域との連携:

- ・有玉っ子サポーターの授業支援が非常に機能しており、温かい交流が教育の基盤となっている。

・グランドデザインの知・徳・体について

知: ICT の活用やタブレット上での協働的な学習が進んでいる。一方で、自分から学ぶものを選ぶ「主体性」や、「個別の支援が必要な児童への対応」を進めていく必要がある。

徳: 互いを認め合う風土があり、縦割り活動や委員会に一生懸命取り組む児童が多いのが特徴である。

体: 元気に遊ぶ姿は見られるが、グラウンドの状況(水たまり)を考えない行動や、遊具からの飛び降りによる事故など、安全意識の薄さが課題である。

○今後の方向性

「できたね」「ありがとう」の段階から、さらにもう一步踏み出し、仲間と高め合う姿や「自分たちでやってみよう」という高い主体性を目指す必要がある。

【D グループ】

○地域活動の成果:

家庭科の授業や地域探検での有玉っ子サポーターの支援、プールの見守りへの保護者協力などが定着し、教員の負担軽減と教育の質向上につながっている。

○学習面について

- ・自分の考えを発表できる児童が増え、ペア学習や「ミニ先生(教え合い)」が活性化している。
- ・一方で、忘れ物により授業に参加できない児童がいる。
- ・教職員が話しすぎてしまい、児童が受け身(受動的)になっていることもある。

○生活面について

- ・「置き勉ボックス」の導入後、配付物を配るなどの係活動が減り、一部で自分中心に行動してしまう児童も見られた。

○今後の改善策

- ・体育などで小さな「できた」を積み重ねる授業づくりを推進し、達成感を味わわせる工夫をする。

【協議会委員の感想】

○家庭・地域の役割

姿勢や食事、家庭学習の習慣は、学校だけでなく「家庭の鏡」としての教育が不可欠である。水泳授業の参加連絡(さくら連絡網)などの協力状況から、保護者の意識向上への働きかけも重要であるとの意見が出た。

(村上委員)

○指導のアップデート

わかりやすい説明ができるよう先生方は聞く側への配慮も大切だと思う。

(石田委員)

○社会性への懸念

大人のマナーが子供に影響を与えるため、大人が模範を示すことが必要であると思った。(齊藤委員)

○即時実施の必要性

挨拶運動の強化や、机の高さ調整など、「すぐにできること」からやったいくことが必要だと感じた。コミュニケーションの基本を指導していくこと大切だと思った。(本田委員)

○ボランティアの支援

有玉っ子サポーターの支援が効果的であると確認でき嬉しかった。

(高林委員)

13 連絡事項

次回予定

第3回学校運営協議会は、10月6日(月)13時から開催され、児童も参加する形で、「交通安全推進リーダー」に関連する内容を熟議することが予定されているとの連絡があった。